『竹取物語』の基礎知識

『竹取物語』は**平安時代**の初め頃に成立した物語。作者はわかっていないが、当時知られていた伝承をもとにつくられたと考えられている。

現存する日本最古の物語といわれ、『源氏物語』の中では、**「物語の出で来はじめの祖」**と述べられている。

『竹取物語』は、竹取の翁（さぬきの造）とかぐや姫（なよ竹のかぐや姫）を中心に、次の流れで話が展開する。

- **かぐや姫の生い立ち**
竹取の翁が竹の中からかぐや姫を見つけ、翁と嫗は姫を育てる。
- **五人の貴公子の求婚**
石作の皇子、くらもちの皇子、右大臣・阿倍御主人、大納言・大伴御行、中納言・石上麿足の五人の貴公子がかぐや姫に求婚するが、姫は五人に難題を出す。
- **帝からの求婚**
帝はかぐや姫を宮中に召そうとされるが、かぐや姫は応じない。かぐや姫と帝は歌や手紙を交わす。
- **かぐや姫の昇天**
かぐや姫は自身が月の都の者であることを明かし、翁や帝が引き止めようとする中、天人とともに月へと昇っていく。

古文の特色

●歴史的仮名遣い

①語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→**「わ・い・う・え・お」**
※語頭のハ行や、助詞「は」「へ」などはそのまま。
②「ゐ・ゑ・を」→**「い・え・お」** ※助詞「を」などはそのまま。
③「ぢ・づ」→**「じ・ず」**
④「くわ・ぐわ」→**「か・が」**
⑤助動詞や助詞の「む・なむ」→**「ん・なん」**
⑥母音（a・i・u・e・o）が連続するとき
・au（ア段＋う・ふ）→ **ô**
・iu（イ段＋う・ふ）→ **yû**
・eu（エ段＋う・ふ）→ **yô**

●古文の文末表現

古文には、現代では見られない文末の表現がある。
「～けり（～た、～たそうだ）」・「～たり（～た、～ている）」
「～なり（～だ、～である）」・「～ぬ（～た、～てしまった）」

●古文の語句

古文には、「いと（とても）」のように、現代では使われなくなった語句や、「うつくし（かわいらしい）」のように、現代と意味が異なる語句が見られる。

確認テスト

(1) 『竹取物語』が成立した時代を選びなさい。

ア 平安時代　**イ** 鎌倉時代　**ウ** 室町時代

〔　　〕

(2) 『竹取物語』の展開に沿って、次の**ア**～**エ**を並べかえなさい。

ア かぐや姫と帝は、歌や手紙を交わした。
イ かぐや姫は天人とともに月へと昇っていった。
ウ 求婚する五人の貴公子に、かぐや姫は難題を出した。
エ 竹取の翁は竹の中からかぐや姫を見つけた。

〔　→　→　→　〕

(3) 次の文の（　）に当てはまる仮名を答えなさい。

歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すとき、語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は、「(①)・い・(②)・え・お」になる。

①〔　　〕 ②〔　　〕

(4) 次の古文の表現の意味として最も適当なものを選びなさい。

使ひけり。

ア 使われる。（お使いになる。）
イ 使った。（使ったそうだ。）
ウ 使うだろう。（使うつもりだ。）
エ 使うのだ。（使うのである。）

〔　　〕